

森の育ち場

小倉南区

実施内容

活動名称 森の育ち場 未就園児の部 みちくさ

取組内容

目的・趣旨

乳幼児期は人間の土台を築く大事な時期である。その時期に親子で自然の中で集う。自然観察や自然体験活動を中心に、子どもそれぞれの興味関心を大切に、虫探しや植物の観察などをゆっくりと行う時間を保証する。これらの活動を通して子ども達の感性を伸ばし、自然に興味を持ち、自然を大切に思う気持ちを醸成し、将来的に自然環境を保全する人材を育成することを目的とする。

活動内容

乳幼児及びその保護者向け自然観察会を月に3回程度行う。乳幼児対象のため、生き物の名前など知識の方ではなく、自然を五感でフルに使って「感じる」ことに重きを置く。子どもそれぞれの興味関心を大切に、虫探しや植物の観察などをそれぞれのペースで行う時間を保証する。「どこまで行く」といった目的地ではなく、文字通り「みちくさ」を自然の中で楽しみ、季節の変化、自然の面白さを感じ学びを深める時間とする。



成果

新型コロナウイルスの影響により引きこもり、他人と接触が制限されている影響は未就園児を抱える家庭にも顕著であり孤立化が進んでいる。このような状況下で自然の中で人と接する機会を設けることで、自然が持つ癒しなどの効果をよりはっきりと感じることができた。

今後の展開

今後も継続して乳幼児とその保護者が気軽の自然と親しむ機会を提供する。

戦略基本目標 3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

今町校区まちづくり協議会

小倉北区

実施内容

活動名称 紫川をシンボルとしたまちづくり
～紫川ウォーキング生きもの調べ、河川清掃～

取組内容

目的・趣旨

紫川は校区の東側に接し南北に流れる。この紫川を母なる川として愛し、自然環境を保全しようとする住民の心を育む。自然を大切に、自然を守っていくことの大切さを感じ取ることを活動の基本とする。

活動内容

- ・紫川生きもの調べ
- ・紫川清掃（校区住民のほか、清掃活動）

成果

河川清掃は、毎月ボランティアが行っている。特に、春のアユ放流祭の日に行われる紫川河川清掃には、多数の地域住民の他、小学生と保育園児も参加する。紫川ウォーキングでは、紫川河川敷のコースで年長者と子どもたちの交流が図られている。



課題

これまでの取組から、地域住民の環境への意識の高まりがあるが、まだ一部には理解が徹底されていない。今後一層、連携して校区内外の住民の環境保全の意識をさらに高めることが必要だ。

今後の展開

清流の象徴「アユ」がいつでも眺められる紫川の復活を目指す。今後も流域各校区の連携を図り、取組を工夫して参加者を増やしていきたい。

ガシャモク再生の会

小倉南区

実施内容

活動名称 小倉南区に自生する絶滅危惧ガシャモク等の
生物多様性保全の市民活動

取組内容

目的・趣旨

ガシャモクの再生・保全・啓蒙活動は、行政、地元自治会、銀杏会、財産組合、市立市丸小学校や地元の皆さま等の多様な方々と協働で協力していくことが不可欠である。再生10年目の節目を迎え、ガシャモク等を通じ地元自治会や市丸小学校等、自生池の環境整備や生物多様性保全活動が主要テーマである。

活動内容

活動は、①自生池における水草の観察と保全活動、②安全対策、土手保全対策、池干し、野生動物対策等の多様な活動、③地元市丸小学校とのガシャモク等の環境総合学習活動、④第5回北九州市民対象のガシャモク観察会等の啓蒙活動、⑤ガシャモク資料館の活用に伴う啓蒙活動、⑥ガシャモク再生に伴う池生態系の生物多様性保全活動等である。

成果

小倉南区自生池は、絶滅危惧ガシャモク、インバモ、ツツイトモやカタシャジクモ等の生育状況、マジミヤメダカ等の生息状況、オオバンやカワセミ等の水鳥類、多種多様な渡り鳥の生息状況を確認できた。池は再生10年目、水質は池底まで目視、水中林のようにガシャモク等の水草の確認が続いている、ワンド部の泥厚変化は昨年とほぼ同程度を示した。動物侵入は、侵入防止フェンスの新設の効果で動物の侵入圧が減少し、水草等へ害圧も減少した。北九州市民を対象に第5回



成果

ガシャモク観察会は、新型コロナの影響で中止したが、ガシャモク資料館の開館は継続して行った。地元市丸小学校は緊急事態宣言解除後、12回目になる全国一斉水質調査に参加、総合学習の一環で、ガシャモク観察や環境学習の体験授業を行った。その後、新型コロナに伴う緊急事態宣言再発令で、2回目の生物多様性保全活動は中止した。継続中のガシャモク系統保存と殖芽再生試験は、冷暗所下での保存と自然界における再生試験を実施、その他としてガシャモク会報作成や清掃等実施した。

今後の展開

北九州市の財産ガシャモクをキーワードに、豊かな市民の財産に、そして二つ目に生物多様性の保全に役立つよう協働して、展開している所である。

曾根新田花咲く町づくりふれあい会 小倉南区

実施内容

活動名称 絶滅危惧種塩生植物ハママツナ、ホソバハマアカザ、ハマサジの保護

取組内容

目的 数少なくなったハママツナ、ホソバハマアカザ、ハマサジを絶滅させない。

- 活動内容**
- ・ゴミ拾い、よしの草取り
 - ・護岸の草切り
 - ・パイプの補強
 - ・網の上下をロープで補強
 - ・3日おきにプランターに潮水をかける
 - ・パイプの塗装
 - ・塩生植物に肥料を与える

成果 1年草で種から育てるので年々うまく来て来た。



今後の展開

種が自然に落ちて育ったのと、公園と喜多村邸で育てた物を色や高さを比較して研究して行く。

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団 八幡東区

実施内容

活動名称 第35回紫川アユの放流祭

取組内容

目的趣旨 北九州市のシンボルである紫川へアユの放流を行い、アユの保護増殖を行う。同時に、地域の小中学生を含め放流祭に参加いただくことで、川や生き物を大事にする道徳心や地域を大切に作る愛郷心を醸成する。

活動内容 紫川へのアユ放流。(今町市民センター前、長行、長尾の三箇所)

成果 約1万尾のアユを、紫川の三箇所(今町市民センター前、長行、長尾)に、地元の皆さんの協力をいただきながら放流を行った。

課題 本年は、コロナウイルス蔓延のため、アユ放流のみを地域の方々と一緒になって行った。コロナウイルスの状況が落ち着けば、今後、より多くの子供たちに参加を促したい。



今後の展開

本年度は、アユの放流祭や例年開催をしているシンポジウムもコロナウイルス感染拡大防止の為、中止とさせていただいた。来年度は状況を鑑みながら、イベント活動を徐々に実施していきたい。

日本カブトガニを守る会福岡支部 小倉南区

実施内容

活動名称 カブトガニの産卵場所の清掃活動・産卵観察会

取組内容

- 目的趣旨**
- 曾根干潟のカブトガニの主要な産卵場所である朽網川河口の砂浜の環境整備。春から初夏にかけて発生し漂着する大量の海藻類は、そのまま放置すると腐敗してヘドロ化し、硫化物の発生で産卵や卵の発生に影響を与える。また、大量の漂着ゴミは、産卵行動を阻害したり、浜に堆積すると卵の発生や孵化に影響を与えたりするので、これらを撤去回収して産卵場の砂浜の健全化を図っている。
 - 産卵観察会を通して、曾根干潟の重要性やカブトガニの保護の必要性を知ってもらう。

- 活動内容**
- 6月6日(日) 地元まち協と協働で開催予定の朽網川河口海岸の清掃活動が、コロナ蔓延防止で中止になったが、守る会会員と地元有志の13名で産卵場整備として漂着ゴミの片付けを行った。
 - 7月25日(日) 地元まち協・市民センターと共催で朽網川河口海岸においてカブトガニ産卵観察会と漂着ゴミの回収活動を行った。
 - 年間を通して随時、当支部会員3~4名で漂着ゴミを回収し、砂浜の整備を行った。



- 成果**
- 6月6日の清掃活動では、行事としては中止にもかかわらず地域の方や中学生、ボーイスカウトの方等の参加があった。これを機に、ボーイスカウトが定期的に活動することになった。
 - 7月25日の観察会&清掃活動では、参加者65名。うち子ども23名。特に地元企業からの参加が多かった。回収ゴミ45L 40袋、軽トラ2台分の流木回収。

課題 漂着ゴミの量が増え、回収作業が追いつかず、産卵場所の確保が難しい時がある。

今後の展開

干潟の海藻類の異常繁茂は、ここ数年小康状態であるが、梅雨等の大雨が降った後に、東風が吹くと、河川から海へ出たゴミ類が干潟内に入り、砂浜に漂着する。このような現象はこれからも繰り返されると思われる。根本的な方策がない為、ゴミ、海藻類の撤去回収作業を来年度以降も地域と連携しながら続けていきたいと思う。

“平尾台・広谷湿原”ラムサール条約登録実行委員会 小倉北区

実施内容

活動名称 広谷湿原保全プロジェクト

取組内容

目的・趣旨

カルスト台地平尾台には、存在するはずのない広谷湿原が存在する。その平尾台、広谷湿原を保全するため、ラムサール条約登録啓発活動を行っている。ラムサール条約は、水鳥を保全する条約であったが、1996年より生物多様性全体を保全する条約となっている。日本では、山口県の秋吉台がラムサール条約に登録されている。秋吉台と同じカルスト台地、そして広谷湿原のある平尾台をラムサール条約に登録しよう、活動をしている。

活動内容

〈研究発表〉
 ・広谷湿原ネザサのかきおこし(人為的攪乱)2011~2019 計9回実施
 福岡県保健環境研究所、福岡県京築保健環境福祉事務所と協力
 ・ラムサール条約におけるカルストの地下湿地=石灰洞
 ~平尾台+広谷湿原のラムサール登録をめざして~ の作成と発表
 〈PR活動〉
 ・ラムサール条約登録啓発ポスターVer.2、2019年チラシVer.8
 (A4両面)、2019年パンフレットVer.3(A3両面)の作成
 ・協賛、後援を北部九州の24団体からいただいている。
 ・北九州圏内の西鉄バス車内、下記イベントなどで2万枚以上の配布
 ・平尾台、広谷湿原案内:福岡県京築保健環境福祉事務所主催自然
 観察会、九州高等学校理科教育研究大会(九州理科教員の大会)



活動内容

巡検研修、などなど。
 ・ラムサール登録アピール:井筒屋8F連絡通路、井筒屋クロスロードイベント、こども環境学会、福岡県環境教育学会、世界一歩行きたい科学広場、わくわくサイエンスキッズ、響灘ピオープラムサール月間アピール、エコライフステージ、ふくおか水もり自慢、などなど。
 ・2020年2021年は、定期的な監視活動を行うも、COVID-19(コロナ)の影響で広報活動を休止しております。

成果

令和3年度自然公園関係功労者環境大臣表彰 受賞
 受賞者:佐々木 公裕

私たちの未来環境プロジェクト 戸畑区

実施内容

活動名称 水辺と森の
ふれあいプロジェクト

取組内容

目的・趣旨

河川・道路等に漂着ゴミ・ポイ捨て等が増えてきていることから、ゴミ問題を解決するために清掃活動を行います。また生き物とのふれあいを通じて、私たちにとって自然が如何に大切なものであるかを自然観察(主に昆虫関係)を通して考えるきっかけをつくります。

活動内容

道路清掃活動、海岸周辺清掃活動(2ヶ月に1回ペースの活動)
 自然観察(主に昆虫)(年2回程度)
 親子で学ぶ昆虫学入門(毎月1回)



成果

継続して実践して活動することにより老若男女問わず徐々に参加頂いています。

課題

「人を育てる人」を育てること。

今後の展開

点と点を結び線となり、やがて面への広がりとなるきっかけづくりを目指し続けていきます。

光和精鉱株式会社 戸畑区

実施内容

活動名称 地元戸畑区の公園清掃と
北九州市まち美化清掃への参加

取組内容

目的・趣旨

当社は廃棄物の適正処理を通じて、環境保全と循環型社会の構築に貢献することを使命としている。当社では、この考え方を具体的に実践する活動として地域の清掃活動を行っている。(毎月第4土曜日に地元戸畑区の大橋公園と戸畑駅周辺で実施)また、自治体や他団体が主催する環境保全に関する各種催しへの協力・支援を行うことで地域環境保全に寄与している。(北九州市まち美化清掃、市民いっせいまち美化の日への参加)こうしたボランティア活動を通じて、社員一人ひとりが地域社会に直接触れ合うことの重要性を知った。地域社会に直接触れ合うことでより一層環境保全に対する意識を高めていきたい。



TOTO株式会社 小倉北区

実施内容

活動名称 TOTO水環境基金助成先団体の活動

取組内容

目的・趣旨 地域の水とくらしの関係を見直し、再生することを目指した水環境や生物多様性の保全・再生につながる実践活動を支援します。助成金による経済的支援だけでなく、TOTOグループ社員の活動参加や情報交換などを通して、年々活動の輪が広がっています。

活動内容 2005年の設立以来、のべ281団体を支援してきました。活動地域は国内40都道府県、海外16カ国に及びます。



戦略基本目標 4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

北九州高校魚部 小倉南区

実施内容

活動名称 水辺の環境を伝えていく学習活動

取組内容

目的・趣旨 川に入り実際に目にして感じたことを、多くの方に伝えていくことで、河川やそこに棲む生きものの事だけでなく、環境美化への意識も高めるとともに、地域の自然環境に興味を持ってもらうことを目的とし活動しています。

活動内容

- ①紫川清掃活動
採集調査活動をする際に、周囲の清掃活動を行うようにしています。短時間でもかなり多くのゴミを回収できました。回収後はゴミの種類を確認し、どんな種類のものが多いのか、またそれらが河川や生きものにどういった影響を及ぼすと考えられるかを話し合い、今後の交流活動の際にも伝えていこうと思います。
- ②紫川生きもの探し（交流イベント）
今年新たに始めた、今町小学区の児童や保護者の方との交流イベントで、市民センターでパワーポイントを使った「紫川に棲む生きもののお話し会」を行った後、一緒に川に入り採集調査をし、そこで捕まえた生きものの紹介をしました。川に入る前には、児童たちに川遊びの注意事項や生きものの扱い方など説明しました。



成果 ①に関して、短時間でしたが多くのゴミを回収できました。②に関して、参加していただいた児童の皆さんも、しっかりと話をきいてくれて、生きものをきっかけに自然環境にも興味を持ってもらえたと思います。

今後の展開

①清掃活動を続けていくことで、河川の美化だけでなく、同じように清掃活動してくれる人たちが増えていくよう、定期的にこの活動を行っていききたいと思います。
②今後は他の地域の方ともこうした交流イベントを行っていききたいと思います。

NPO法人グリーンワーク 小倉北区

実施内容

活動名称 北九州みどりのじゅうたんプロジェクト
～保育園・幼稚園・小学校芝生化事業～

取組内容

目的・趣旨

- ①子供達の健康増進と体力向上
- ②ヒートアイランド現象の抑制
- ③地域景観の向上
- ④地域コミュニティの形成
- ⑤環境教育の推進

活動内容 主な活動は、子供達、先生、地域の方々との協働作業で実施している。

- 保育所・幼稚園園庭芝生化事業
 - ・芝生環境紙芝居の実施
 - ・芝苗の植え付け
 - ・冬芝の種まき
 - ・ネイチャーゲーム(自然ビンゴ)の実施
- 小学校運動場芝生化事業
 - ・ポット苗の育成
 - ・ポット苗の植え付け
 - ・冬芝の種まき
 - ・肥料播き



成果 園庭や運動場を芝生化することにより、ヒートアイランド現象の抑制や生物多様性に役立つことを紙芝居やゲームによりわかり易く子供達に伝えることが出来た。

課題

芝生化実施済みの園庭や運動場の管理方法の検討。

今後の展開

保育所・幼稚園では、更に環境教育を推進していきたい。小学校では地域の方々の参加による地域コミュニティの形成に力を入れたい。

グリーンパーク活性化共同事業体 若松区

実施内容

活動名称 北九州市「100万本植樹プロジェクト」への協力

取組内容

目的・趣旨

「市の施策である『美しい緑の環境首都』への貢献」の一環として、また自然環境保全の啓蒙活動の取り組みとして、北九州市響灘緑地/グリーンパークでは、春と秋のイベント時に来園者への花苗や種のプレゼントを実施しております。

活動内容

2021年度はイベント企画として来園者に花の苗や種をプレゼント致しました。春の「ファミリーフラワーフェスティバル」では4/29・30にペチュニアの苗を両日で1000苗、5/4・5にひまわりの種を両日で500袋、「秋のバラフェア 2021」では期間中(10/16～11/14)の土曜・日曜にバラの苗を各日先着400苗プレゼント実施。



成果

「秋のバラフェア」では計4000株のバラの苗が来園者に配付されました。

戦略基本目標 5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

九州国際大学附属高等学校生物研究部 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州市の動植物調査

取組内容

目的・趣旨

フィールドワークを通じて、北九州市に生息する動植物を明らかにし、環境改善に役立てること。また、自然に精通した人材を育成すること。

活動内容

北九州市内のイエコウモリの生息状況の調査。
平尾台の洞窟棲コウモリの調査。
※2020年3月より、新型コロナウイルス感染予防のため洞窟調査の実施なし。

成果

これまでの活動を通じて、北九州市内においてイエコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリの生息を確認してきた。2017年にはキクガシラコウモリの出産保育コロニーを、2019年にはテングコウモリの生息を市内で初めて確認することが出来た。



課題

北九州市全域のコウモリ類の生息実態を明らかにすること。

今後の展開

北九州市に生息するコウモリ類の、より詳細な分布状況を明らかにする。

ジオ&バイオ研究会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州の多様かつ貴重なジオパーク資源を生かしたまちづくり

目的・趣旨

域内各地のジオパーク資源を学際的に調査研究し、できるだけ楽しく面白く解説(インタープリテーション)することにより、市民や観光客向けの学習資源化を図り、自然環境の維持保全ならびに北九州ジオパークの実現に貢献することを目指す。

活動内容

2011年の発足以来、毎年度月1回、月例会としての“楽習会”を実施。ジオパーク推進事業のイベントに参画し、これを支援する体制を強化している。シンポジウム等の開催を通じ、ジオパークの理解促進を行っている。

成果

博物館主催のジオツアーなどに支援参加するとともに各種団体の会合で活動を報告することにより、北九州の地質、地形、歴史などの観点から魅力を発信し、北九州ジオパークの認定に向けた意識の醸成が進んだ。先進ジオパークの訪問調査や関連図書の購入、活用で会員の知識を高めた。
製作した「ジオかるた北九州」を全市民センターや児童館に寄贈し、それを活用して楽しく遊びながら北九州のジオについて解説できた。



ジオハイク
「恐竜時代の大地！
皿倉ウォーキング」



「ジオかるた北九州」を使った昔あそびで北九州の魅力を探りながら学ぶ(到津市民センター)



市民センターや児童館に寄贈した「ジオかるた北九州」

課題

ジオパーク推進において当研究会が要望に応えられる組織となるために、会員の知識力・行動力・発想力等の強化を図り、環境変容に柔軟に対応できる組織づくりを行っていきたい。

今後の展開

自然環境保全と北九州ジオパーク実現を後押しする市民団体として、今後の北九州ジオパークの手續きの進展をフォローしていきたい。また、SDGs活動の出前講座などで「ジオかるた」を活用して北九州のジオの魅力を発信していきたい。

日本野鳥の会北九州支部 戸畑区

実施内容

活動名称 野鳥をシンボルとした自然保護活動

取組内容

目的・趣旨 2020年・2021年はコロナ禍で活動できませんでしたが、例年は次の活動を行います。楽しい探鳥会、野鳥の生態を調べる調査・研究、野鳥の生息環境を守る保護活動を3本柱として取り組み、市民のみなさんへの普及を図りながら、北九州市とその周辺をフィールドとして活動します。

活動内容
探鳥会：2019年は、37回実施(参加者総数583名)
調査研究活動：ハチクマの渡り調査(探鳥会を兼ねる)、ガン・カモ・ハクチョウ類越冬調査、曾根干潟鳥類生息調査、鳥獣保護区内鳥類生息調査(福岡県委託による)を実施
保護活動：野鳥の違法な飼養・販売・捕獲の情報収集、風力発電が野鳥に与える影響の低減・回避のため関係機関と協議、曾根干潟の清掃活動
普及活動：小中学校、NPO団体、市民センター等への出張探鳥会や講座依頼に対応
機関誌発行：支部報「北九州野鳥」を年12回発行



市民センター行事に協力(曾根干潟での探鳥会)

成果

- ①探鳥会や調査を実施の結果、北九州市における野鳥の動向を把握
- ②保護活動の成果が表れていないが、野鳥の代弁者としての役割は果たしている
- ③出張探鳥会や室内講座では好評を得ている

今後の展開

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、市民のみなさんと共に野鳥を通じて自然とふれあい、自然を守る活動をしていきたい。

緑の回廊事業 (どんぐり苗の育苗) 協力企業



■ 株式会社安川電機



■ イオンモール八幡東



■ 日本コープ工業株式会社
北九州事業所



■ 日本通運株式会社
北九州支店エコタウン営業所



■ イオン若松ショッピングセンター